**良きA型事業のあり方を考える**

**～全Aネットのめざすもの～**

はじめに

近年悪しき福祉ビジネスとしてのA型事業所の存在が問題視されています。多くがディーセントワーク（やりがいのある仕事の提供）とは程遠い状態です。そのため国は、短時間減算措置（平成24年10月、平成27年10月）がなされ、さらに今年２月A型の運営基準の一部が変更され、生産活動収入から経費を除いたものが賃金総額を上回らなければならないことが明文化、経営改善計画の提出や改善が見込まれない場合には勧告・取消の命令が発動されることになりました。運営がさらに厳しくなることが予想されますが、全Aネットとしましては、A型事業を必要とされている障害者のために、健全な運営をめざして努力していきたいと考えています。

A型の運営の難しさは、福祉施策における事務業務や相談・精神面のサポートに加え、生産性にハンディをもった障害者に仕事を提供しつつ最低賃金をクリアしなければならないことにあります。日本政府は2014年1月に障害者権利条約に批准しました。インクルーシブでディーセントな障害者就労施策は喫緊の課題であります。合理的配慮が社会一般に根付くまでの間、A型の果たす役割は大きいと考えています。また一億総活躍社会の実現が言われています。今後、障害者総合支援法内でのA型事業の可能性の検討の他に、障害者以外の引きこもりやニートなどを含め、大いなるA型の可能性についても検討していきたいと考えています。

全Aネットでは、一昨年から「A型事業の課題と可能性」について検討を行ってきました。その一環として、ヤマト福祉財団の助成を受けて、平成28年2月に予備実態調査を、さらに平成29年2月に本格実態調査を実施しました。また日本財団から平成29年度助成「中間的就労分野における就労継続支援A型事業の可能性拡大事業」を受託、前述の実態調査結果をもとに年８回の専門家による「研究会」と、全国４都市において「A型フォーラム」を予定しています。

今回、開催しますこの「A型フォーラムin福岡」は、7月に開催しました大阪大会と同様に、日本財団が主催する平成29年12月9日～10日に行われる「就労支援フォーラムNIPPON2017」のサブフォーラムとしての位置づけとなります。テーマを「いいA型のあり方を考える」と題して、地域の現場の皆様による意見交換を行ない、良きA型事業所を増やしていきたいと考えています。また今回、ヤマト福祉財団パワーアップフォーラムとの連携事業として開催できたことは、大変幸甚に存じます。A型事業所実態調査へのご協力でも大変お世話になりました。

最後に、助成をいただいた日本財団に深く感謝申し上げます。また開催にあたりご協力いただいた福岡A型事業所協議会の皆様に深く感謝申し上げます。

平成29年9月2日

NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会

（略称：全Aネット）

　理事長　久保寺一男